

令和8年2月1日

第260号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.nnya.maff.go.jp/kanto/>

- ◎ 「レクリエーションの森」の紹介 保全課・・・1
- ◎ 「令和7年度 国有林野等所在市町村長有志協議会」を開催 企画調整課・・・3
- ◎ 赤谷の森から ～人工林の伐採による狩場創出の取組～ 赤谷森林ふれあい推進センター・・・5
- ◎ 森づくり最前線 会津森林管理署 昭和森林事務所 首席森林官 佐藤 誠司・・・8

【写真】「春待つ 妙義山」（群馬森林管理署）

「レクリエーションの森」の紹介

保全課

1 レクリエーションの森について

日本における本格的なスキー場開発は昭和 25 年ごろから始まり、国有林野事業においては昭和 34 年に国有林野内スキー場の制度が発足しました。

その後、避難小屋、野営場、自然休養林等の国民の保健・文化的利用のための施策を行ってきましたが、これらを包括・拡充する形で、昭和 47 年度以降よりレクリエーションの用に供する国有林野を「レクリエーションの森」として設定してきました。

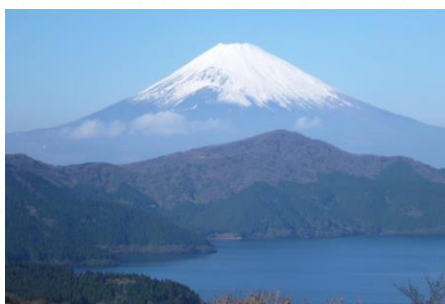
2 レクリエーションの森の種類

国有林野の豊かな自然を国民の皆様に利用していただくため、以下の①～⑥に該当するような、山岳、渓谷、湖沼など一体となった美しい森林や野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」として利活用しています。なお、令和 7 年 4 月 1 日時点で、関東森林管理局管内では 156 箇所（約 48 千 ha）を選定しています。

- ① **自然休養林**（特に風景が美しく、保健休養に適している森林。）
- ② **自然観察教育林**（森林環境教育や自然観察に適している森林。）
- ③ **森林スポーツ林**（森林とふれあいながら、スポーツを楽しめる森林。）
- ④ **野外スポーツ地域**（雄大な自然と新鮮な空気の中で、スポーツを楽しめる森林。）
- ⑤ **風景林**（名所、旧跡等と一体となって景勝地を形作ったり、眺望が美しい森林。）
- ⑥ **風致探勝林**（山岳、湖沼、渓谷等が一体となり、美しい自然景観を楽しめる森林。）



ブナ平自然観察教育林
(福島県)



芦ノ湖風景林
(神奈川県)



野外スポーツ地域
(苗場スキー場)

3 「日本美しの森 お薦め国有林」について

林野庁では、平成 28 年 3 月の「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」の策定を踏まえ、国有林のレクリエーションの森を核とした山村地域における観光地域づくりの取組みを推進するため、「森林景観を活かした観光資源の創出事業」を行っています。

レクリエーションの森の中でも、特に優れた自然景観を有するなど観光資源としての潜在的魅力が確認され、観光施策を推進していく上で地元関係者による実行・受入体制が見込める箇所を「日本美しの森 お薦め国有林」と定め、全国で 93 箇所を選定し、外国人観光客も含めた利用者の増加を図っています。

日本美しの森 お薦め国有林に選定されたレクリエーションの森では、修景伐採や施設整備などの環境整備、多言語による標識類の設置やウェブサイトの整備などの情報発信を展開しています。

令和6年度には、ドローンを活用した動画による配信を行い、多くの方に日本の美しい森林景観を味わっていただけるよう、地域の方々のご協力を得て取り組んでいます。

※「野反自然休養林」動画リンク先

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/nozori.htm



なお、関東森林管理局管内では、次の15箇所が「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されました。

- 1 御池・ブナ平風致探勝林（福島県檜枝岐村）
- 2 奥久慈自然休養林（茨城県常陸太田市、常陸大宮市、大子町）
- 3 野反自然休養林（群馬県中之条町）
- 4 高尾山自然休養林（東京都八王子市）
- 5 飛竜橋自然観察教育林・千石平風致探勝林（静岡県川根本町）
- 6 会津東山自然休養林（福島県会津若松市）
- 7 蓋沼自然観察教育林（福島県会津美里町）
- 8 沼沢湖自然観察教育林（福島県金山町）
- 9 達沢不動滝風景林（福島県猪苗代町）
- 10 裏磐梯デコ平スポーツ林（野外スポーツ地域）（福島県北塩原村）
- 11 小田代・湯ノ湖自然観察教育林（栃木県日光市）
- 12 武尊自然休養林（群馬県片品村、川場村、みなかみ町）
- 13 丹沢自然休養林（神奈川県秦野市、山北町）
- 14 芦ノ湖風景林（神奈川県箱根町）
- 15 奥浜名自然休養林（静岡県浜松市）

※「日本美しの森 お薦め国有林」HP

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/index.html



4 レクリエーションの森を楽しもう！

「日本美しの森 お薦め国有林」に選定された箇所以外にも、魅力的なレクリエーションの森が多数存在します。

日本には、季節によって変わる美しい自然の風景を指す「花鳥風月」という言葉があり、自然や四季を愛する文化が古くから根付いています。

冬季のスキー場はもとより、春季の新緑、夏季には涼を求め、秋季には紅葉と、楽しみ方はそれぞれありますが、自然のルールを遵守しつつ安全にも配慮した上で、シーズンに応じたレクリエーションの森をぜひともご利用ください。

特に最近、乾燥している日が続いている地域があります。火災が発生すると人命や森林に甚大な被害を及ぼしますので、火の取扱いにはどんな日でも注意を払い、市町村より林野火災警報や注意報が発令されている時には屋外において火の使用を控えてください。



※「レクリエーションの森」のロゴ



国有林野等所在市町村長有志協議会とは

「国有林野等所在市町村長有志協議会（以下、「協議会」という）」は、国有林を抱える市町村の長及び森林管理署長等で構成されており、関東森林管理局管内の184市町村を19流域に分けて、それぞれの地域ごとに協議会を設置しています。

協議会では、地域と国有林野事業の連携強化、地元農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行を目的として、市町村長等との意見交換を実施しています。

令和7年度国有林野等所在市町村長有志協議会の開催



協議会の様子
(福島県浜通り地区有志協議会)

今年度の協議会は、昨年10月21日の福島県中通り地区を皮切りに、1月までに福島県浜通り地区、栃木県、静岡県、茨城県、新潟県、福島県会津地区、群馬県利根沼田地区において順次開催しました。各地域の協議会では、関東森林管理局から「林野庁関係予算の概要」「森林環境譲与税の有効活用」等、各森林管理署から「署の取組事項」について情報提供するとともに、各県及び各市町村からも地域における取組等について情報提供いただき、その後意見交換を行いました。

意見交換では市町村長等の皆様から、

- ・今まで目撃されなかった場所にもクマが出没しており、地域住民は不安な生活を余儀なくされている。鳥獣被害対策も踏まえた総合的な山づくりが必要であり、里山整備や森林緩衝帯の整備等について、対策事業の拡充をお願いしたい。
- ・松枯れ、ナラ枯れが急増しており、民有林・国有林問わず被害が見受けられる。国有林における調査や対策、民有林と連携した取組、近隣の被害状況の共有等について引き続きお願いしたい。
- ・松枯れ、ナラ枯れ被害木含め、国有林からの危険木・倒木については迅速な対応をお願いしたい。
- ・主伐後は見慣れない景観になることから、「開発行為が行われるのか」と地域住民から問い合わせがある。国有林内における森林施業について、定期的な情報発信をお願いしたい。
- ・登山・トレイルランニング・スキー等、自然を生かしたアクティビティの充実に向けた国有林野の利活用について、引き続きご協力いただきたい。

- ・林業従事者の担い手確保、各市町村の林務担当者の育成が大きな課題である。ICT 技術の活用や講習会・現地検討会等の取組があれば教えていただきたい。
- ・災害復旧のための治山事業及び林道整備に関する計画的な予算措置をお願いしたい。
- ・福島県の森林再生事業や復興対策について、引き続きご支援・ご協力をお願いしたい。また、帰還困難区域における国有林内の森林整備・林道整備を進めていただきたい。等のご意見・ご要望をいただきました。



出席者に挨拶を行う松村関東森林管理局長
(新潟地区有志協議会)



地元市町村からのご意見に耳を傾ける
(群馬県利根沼田地区有志協議会)

終わりに

2月17日には東京都内において、19流域の各有志協議会の代表市町村長と意見交換等を行う「国有林野等所在市町村長等有志連絡協議会」を開催予定です。

関東森林管理局では、各流域における協議会を通して、各市町村からの貴重なご意見・ご要望をいただくとともに、地域社会と連携した国有林野の管理経営に取り組んでまいります。

今月の表紙

「春待つ 妙義山」(群馬森林管理署)

妙義山は、群馬県の南西部、富岡市、安中市、下仁田町にまたがる峰々の総称で、山域のほとんどが国有林(妙義荒船佐久高原国定公園、妙義自然休養林に指定)です。赤城山、榛名山とともに『上毛三山』(じょうもうさんざん)とされ、古くから上州を代表する山として親しまれています。

昨年12月、妙義山で大規模な林野火災が発生しました。急峻な地形のため、群馬県や埼玉県、山梨県の防災ヘリ、陸上自衛隊からも大型ヘリが出動して懸命な空中散水が続けられた結果、2日後に鎮圧、15日後にようやく鎮火となりました。

乾燥期間はわずかな火種でも引火します。ルールやマナーを守り、火の元は持ち込まないようにご協力をお願いします。



自衛隊ヘリによる消火活動



燃えた林内の様子

赤谷の森から ～人工林の伐採による狩場創出の取組～

赤谷森林ふれあい推進センター

三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画（以下「赤谷プロジェクト」という。）は、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を実現するため、群馬県利根郡みなかみ町新治地区の国有林を中心とした約1万 ha（以下「赤谷の森」という。）を将来にわたってどのような森林にしていくのかを検討し、人と自然との新たな望ましい関係づくりと共生の姿を構築するための取組です。

今回は赤谷の森の豊かな自然を象徴するイヌワシとの共生の取組について紹介いたします。

1 イヌワシの狩場創出の背景

赤谷プロジェクト・エリアはイヌワシの生息地となっており、赤谷プロジェクト発足以前（2004年度）からイヌワシの調査が行われています。イヌワシは森林における生態系ピラミッドの頂点に位置することから、イヌワシが子育てをしながら生息し続けていることを、赤谷の森の生物多様性の豊かさの指標としています。

イヌワシ（赤谷ペア）の繁殖状況調査を行ったところ、2006・2007・2009年度に繁殖が成功したものの、2010～2012年度は繁殖の失敗が続いたことが明らかになりました。

これを受けて、赤谷プロジェクトで原因を分析したところ、伐採地や幼齢林の減少に伴ってイヌワシの狩場が減少し、繁殖活動の維持に十分な環境が安定的には確保されていない可能性があるのではないかと考えました。

2 イヌワシの狩場創出の検討

イヌワシは翼開長が約2.0mの大型猛禽類で、開けた土地を狩場とします（図1）。この生態を踏まえ、イヌワシの狩場の候補地として列状・帯状での間伐がイヌワシの採餌環境の改善に資したとの先行的な取組事例などの知見を基に、イヌワシの赤谷ペアが利用する可能性が高いと想定される人工林から4箇所を抽出することとしました。

その際、3～5年に1箇所以上のペースで継続的に伐採を行っていくことも必要であることから、イヌワシの狩場を創出するために、国有林野事業としての施業の実現可能性、伐採後のモニタリング調査の可能性の両面から検討するとともに、繁殖成功率40%以上を目標（5年間で2回以上）に設定することとしました。



図1 イヌワシの主要な行動範囲において狩りをする環境の推移のイメージ図

3 イヌワシの狩場創出試験地の設定

赤谷プロジェクト・エリアに生息するイヌワシの生息環境の質を向上させることを目的として、過去に狩場として利用が見られたものの、人工林が成熟した結果、現在では利用されなくなった場所を試験地として設定し、ハンティング可能な場所に再生する取組を進めることとしました。はじめに、2013年に「イヌワシのハビタットの質を向上させる森林管理手法の開発－基本計画－」を策定し、2015～2023年度にかけては、第1次～第4次の伐採試験を行い

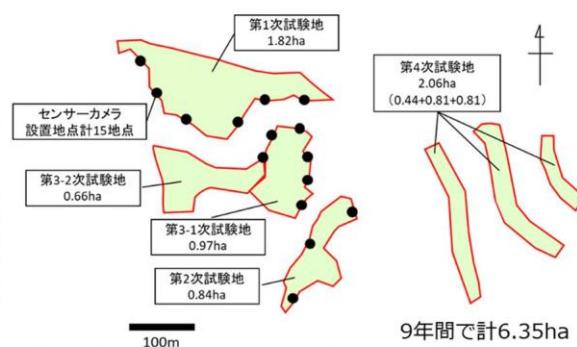


図2 イヌワシの狩場創出試験地の状況

4 イヌワシの狩場としての成果・今後の課題

2021 年度、これまでの狩場創出の成果と課題について検討を行い、「イヌワシのハビタットの質を向上させる森林管理手法の開発-基本計画書 2021-」をとりまとめました。これによれば、第 1 次～第 3 次で伐採した試験地について、イヌワシは狩場として認識するとともに、獲物を探す行動の増加も見られました。イヌワシの繁殖については、狩場創出の取組の約 10 年の間で、2016・2017・2020 年度の 3 回成功しています。また、繁殖が失敗した年についても、抱卵が観察されている場合があり、繁殖環境の改善につながっていることが明らかとなっています（表 1）。今後については、伐採後 5 年程度経過すると植生の成長とともに狩場としての質が低下すると考えられることから、1～2 ha 程度の人工林を順次伐採することにより、赤谷ペアが利用できる狩場を安定的に提供していくこととしています。

表1 イヌワシ（赤谷ペア）の繁殖状況

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
造巢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
抱卵	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○	○	○	○	－	○	○	－	○	×	×
育雛	○	－	－	－	－	－	○	－	○	×	×	○	○	○	○	－	×	○	×	－	×	×
巢立ち	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×
狩場創出										狩場創出検討		第1次伐採	第2次伐採	第3-1次伐採	第3-2次伐採						第4次伐採	

※「造巢」：運搬行動、既知の巣内にある巣材変化を確認。

「巣立ち」：巣立ち後の幼鳥を確認（繁殖成功）、○：成功　×：失敗　－：不明　空欄：調査不十分

5 イヌワシ（赤谷ペア）のトピック

① 赤谷の森イヌワシ繁殖状況 (図 3)

1993 年からモニタリングを開始し、2001 年 1 月に雌が若い個体に入れ替わっていることを確認しました。2013 年頃から生息環境の分析評価を行いました。2015 年には、人工林伐採を開始し、その結果、2016・2017・2020 年に繁殖成功し、目標とする繁殖成功率 40%以上(5 年で 2 回以上)を達成しました。

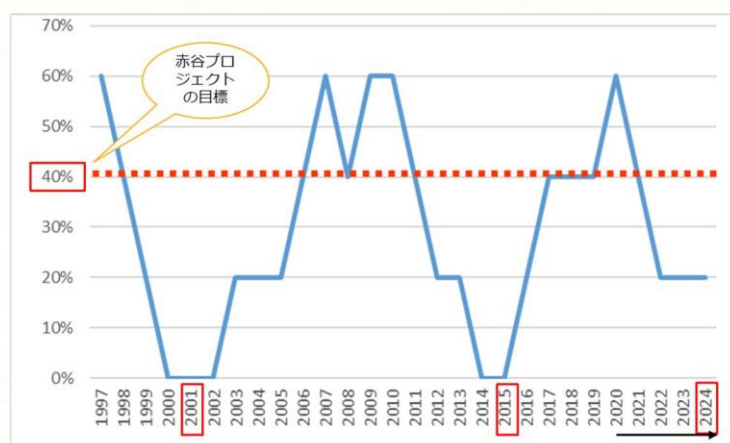


図3 赤谷ペアの繁殖成功率過去5年間移動平均（1993～2024年）

2023年12月24日を最後に雄が確認できなくなりましたが、3～4個体が競い合いながら、赤谷の森に侵入し、2024年1月には、スムーズに雄が若い個体（5歳程度）に入れ替りました。雄は入れ替り直後から試験地を利用していました。その後、2024年2月に雌と、新たな雄（5歳程度）の交尾を確認し、現在まで、ペアで行動しています。

②狩場創出試験で狩り成功の瞬間を初めて確認！R7.12.8

狩場創出試験地を設定してから、10年たちましたが、モニタリング調査結果からイヌワシの獲物を探す行動を評価することで、狩場を利用していると判断してきました。しかし、試験地で狩りに成功した瞬間は、年平均1000時間以上のモニタリング調査でも観察することができ

ませんでした。長年の調査員の努力の結果、令和7年12月8日にその特別な瞬間を確認することができました（図4）。調査に関わった皆様のご協力に感謝するとともに今年の繁殖が成功することを祈願したいと思います。



図4 狩場創出試験で狩り成功の瞬間を初めて確認時の様子

【追伸】

2回目となる狩り成功の瞬間を令和8年1月11日に第1次試験で確認できました。

GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶ <https://expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2025年12月現在）

画像提供：GREEN×EXPO 協会



©Expo 2027

森づくり最前線

会津森林管理署 昭和森林事務所 首席森林官 佐藤 誠司

私の勤務する昭和森林事務所は福島県西部の昭和村に位置し、国有林 14,511 haを管理しています。令和5年9月に博士トンネルが開通し、会津若松方面からの利便性が上がりました。管内には博士山（1,482m）、御前ヶ岳（1,233m）等の山々、駒留湿原、矢の原湿原などがあります。



御前ヶ岳



粘着シートの設置状況
(ナラ枯れ被害対策)

当事務所管内では、スギ等の間伐から主伐期の林分でツキノワグマによる樹皮の剥皮被害が見られ頭を悩ませているところです。また、ナラ枯れ（カシノナガキクイムシ）被害も多く、期間業務職員と粘着シートを巻いたりして自分たちで出来るところから対策を行っています。

造林等の請負事業箇所ではセンサーカメラを設置していますが、シカ、イノシシ、クマが写っていることが本当に多いため、事業者には注意や対策をするよう呼び掛けています。今年度は全国的にクマの目撃情報、被害が多く、入山する際は爆竹を鳴らすなどのクマ対策を行っていますが「人を怖がらないクマ」に対してどれほど有効なのか各種報道を見ると不安を覚えます。



駒留湿原のワタスゲ

南会津町に隣接する駒留湿原では今年度、大雪のためゴールデンウイークに山開きが出来ず山開きが遅くなりました。

湿原ではミズバショウ、ニッコウキスゲ、ワタスゲ等が見られます。しかし、近年シカ及びイノシシ等による食害が問題になっており、駒留湿原保護協議会ではシカ及びイノシシ等の獣害対策として防護柵等の設置・撤去、赤外線センサーカメラによるシカ・イノシシのモニタリング等を行って被害の減少に努めています。

当事務所を取り巻く現状は、病虫害、獣害、猛暑等、自然の影響が多いため様々な課題は尽きないところですが出来ることから進めていきたいと思っています。



駒留湿原で設置した獣害
対策用防護柵



ミズバショウの食害状況